

社会福祉法人 若竹大寿会

介護老人保健施設リハビリゾート青葉



神奈川県横浜市青葉区奈良4-6-13
リハビリゾート青葉 居宅介護支援事業
介護支援専門員 鈴木 務

施設人員配置

- 青葉館 入所者66名 3フロアー(2F 22名 3F24名 4F20名)
- ユニット館 入所者40名 3F、4F各階2ユニット(1ユニット10名)
平均介護度 青葉館 3.29 ユニット館 2.53
- ケアスタッフ 青葉館 常勤24人 非常勤6名 平均年齢33.5歳
 ユニット館 常勤17人 非常勤3名 平均年齢32.9歳
- 青葉館 2.2:1 介護福祉士比率 69.2%
- ユニット館 2.0:1 介護福祉士比率 64.7%
- 医師 常勤 1名
- 看護師 常勤換算 11.2人
- リハビリスタッフ 常勤 PT3名 OT3名
- 管理栄養士 常勤1名
- 支援相談員 常勤3名
- 介護支援専門員 常勤換算1.2名

キャリア段位制度を活用するきっかけ

- 法人よりアセッサー講習受講の勧めがあった為。
- 処遇改善の一考に繋がっていく仕組みを学ぶ為。
- 人材定着の促進や募集に係わる施策となる為。
- 利用者の情報把握をよりの確に行なえるスキルを身につけさせる為。
- 利用者のニーズに即した介護実践力を構築する為。



効果を期待して取り組む。

アセッサー取得者

- 副施設長(看護師) 1名
- 入所介護部(介護福祉士) 9名
- リハビリスタッフ(作業療法士) 1名
- 支援相談員 3名
- 通所リハビリテーション(介護福祉士) 3名
- 居宅介護支援専門員 1名

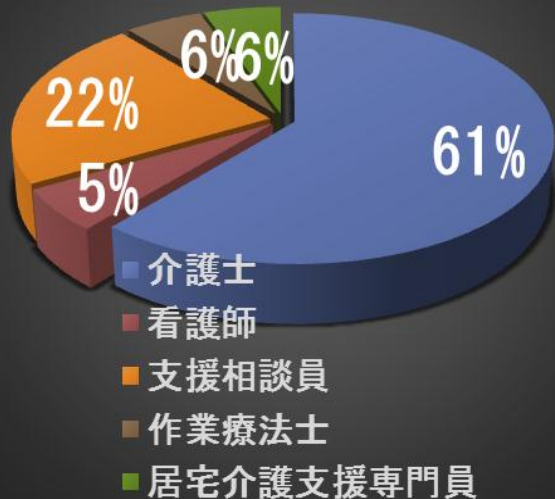
計 18名

アセッサー対象者

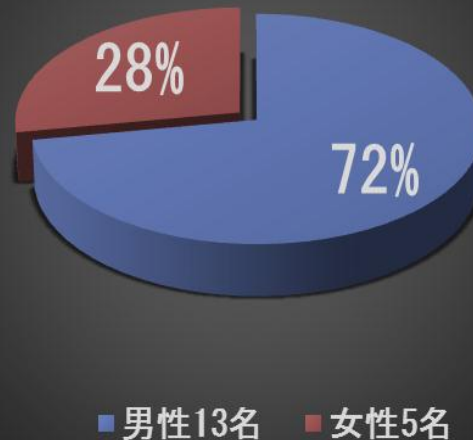
アセッサー従事者：18名
有効回収率：100%（18名）

対象者背景

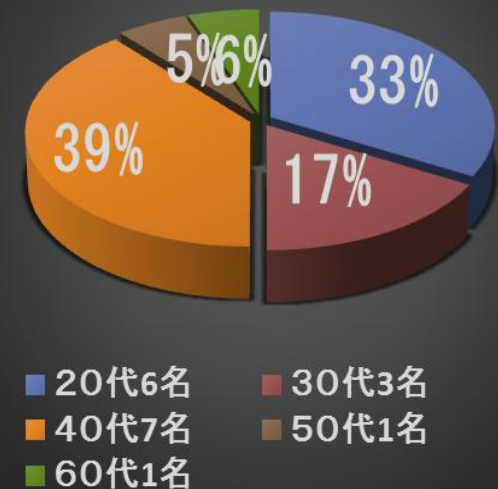
職業別



性別



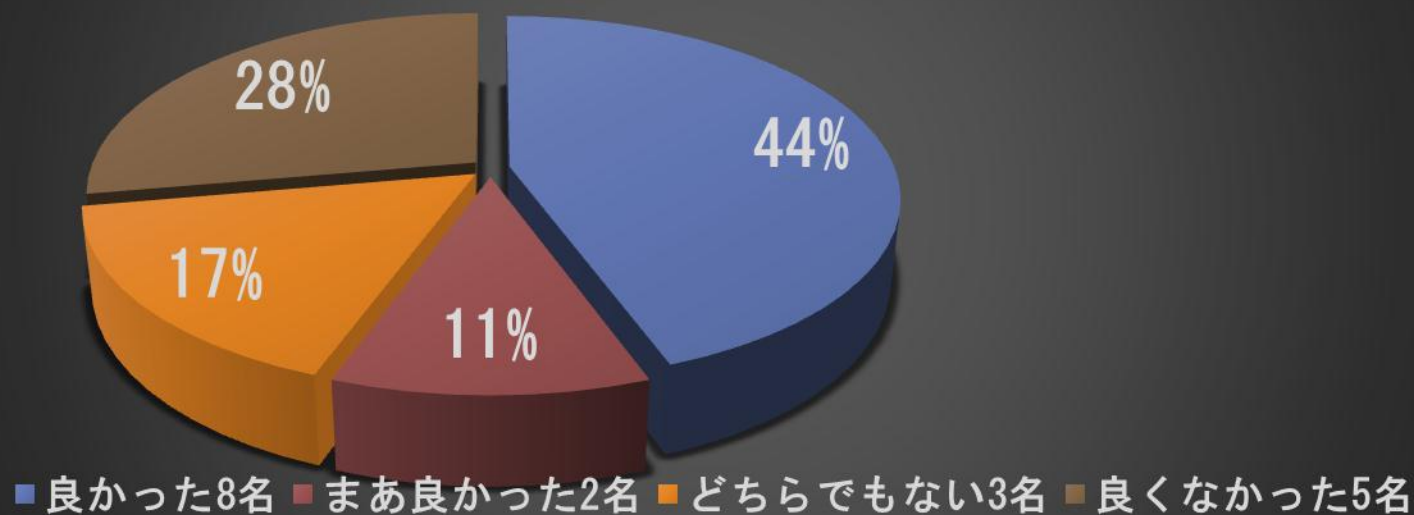
年齢別



アンケート結果①

問 A アセッサー業務についてうかがいます

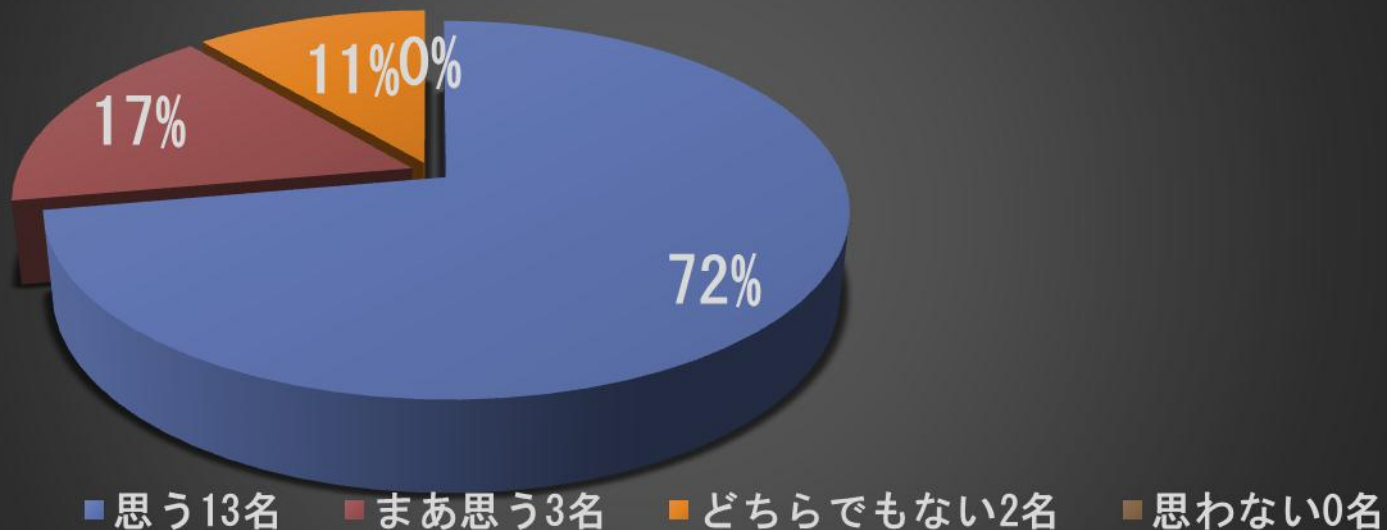
1. 取り組んでみての感想



アンケート結果②

問 A アセッサー業務についてうかがいます

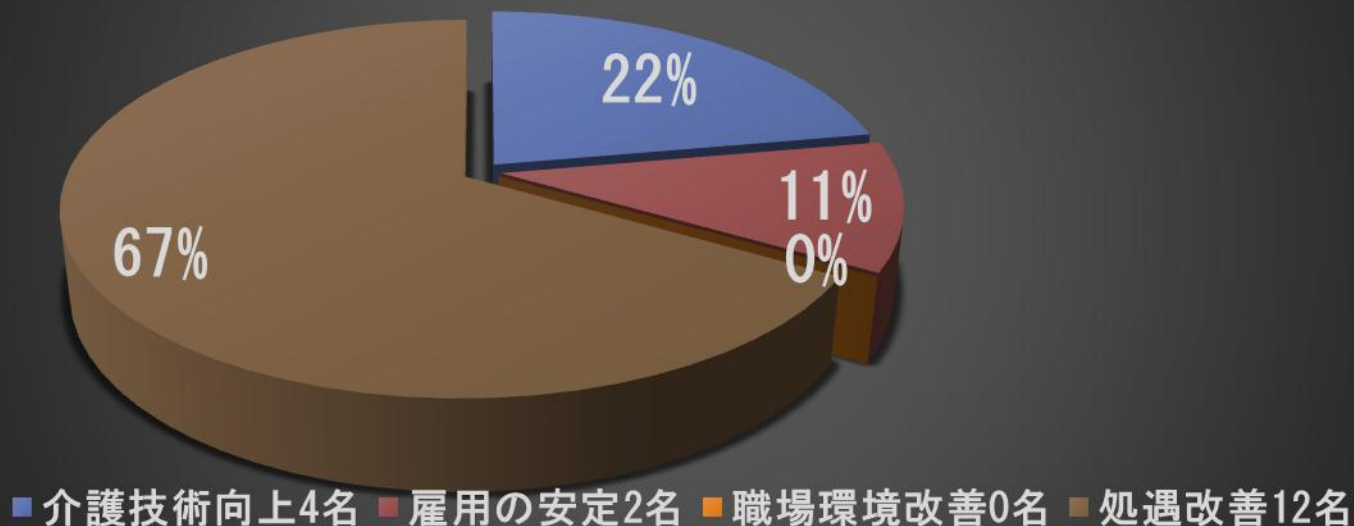
2. 介護技術質の向上に繋がると思えますか？



アンケート結果③

問 A アセッサー業務についてうかがいます

3. 介護キャリア段位制度に期待するもの



取り組んで良かった意見

- 基本的な技術の振り返りになった。
- eラーニングに取り組んだことでパソコンを利用した学習が出来ることが認識できた。
- リーダーの立場にあるものは自分の振り返りも含めてスタッフの介護技術を把握することが出来た。
- 各ユニットごとの技術力が明確になった。
- 評価者自身、介護技術の根拠を理解していない事に気づけた。
- 第三者機関より記録の内容の指摘を受けることで記録の改善が図れた。

取り組んで良くなかった意見

- 評価する時間調整が難しい。
- 学んできた内容と違う。
- 処遇改善に繋がるのか理解できない。
- 勤務時間外の業務が増える。
- 日々の業務が忙しく取り組めなかった。

取り組んでみての課題

- スケジュール管理が困難。(各ユニット・各フロアー任せ)



※平成28年度より別紙スケジュール管理表に沿った形で実践していく予定)

- 制度の説明が明確に出来なかった。(給料への反映は未定)
- 他スタッフの理解の必要性。
- 業務時間外の活動の増加。
- 一時的なものから**継続学習**への取り組みが困難。



大きな課題です。

事業所としての工夫

①評価しやすい環境

- ・各ユニット・フロアーから2名選出しアセッサー講習終了後お互いを評価し、段位取得に向けて取り組んでいく。

②多数応募できる仕組み

- ・アセッサー集合研修日の事業所の業務内容をある程度、別日に変更する事で多くのスタッフがアセッサー講習に参加できるよう調整する。

③学習できる場の提供

- ・介護技術室をつくる。(ネット環境とパソコン2台、プリンター、ベッド、ポータブルトイレ、手摺を用意しスタッフ同士で介護技術の振り返りを行える環境作り)

④事業所としてのバックアップ体制

- ・モチベーションを挙げる為の工夫。(例：茶話会、参考書の配布)